

# 建設コンサルタントにおける情報系技術者として

## As an Information Engineer in construction consultant

インターネット、イントラネットなどのネットワークを軸としたシステムの重要性が、やや渦状と思えるほど言われています。企業がこれらを導入する目的は「より良いサービスの提供」という一言にあります。

本来、情報システムは利用者の立場で発展すべきですが、現状ではコンピュータ関連メーカが送り出す膨大な数と機能をもったコンピュータ関連製品に誰もが困惑しているようです。私自身そのようなメーカのなかにありまして顧客の切実なる要望に答えたいと考えてきました。現にソフトウェアメーカーでも、顧客のシステム導入を支援するソリューションビジネスに力を入れる傾向にあります。

建設・土木関連業務には明確な経験値があること、特に計画調査段階では考慮すべき項目と提供するサービスが多種多様なことから情報システムの構築も複雑です。そこで、私がこれまで養ってきた数値シミュレーション関連の開発技術や、データベース・ネットワーク利用経験のノウハウを建設コンサルタント業に活用する基本的な考え方について述べます。

### 1. 情報提供手段の改善

コンサルタント業の提供する情報は機械的・定量的なもののみに限らず、人間的・ファジィな情報を多く含んでいます。そのため会話による情報伝達を疎かにする訳にはいきません。ネットワーク媒体を利用した情報交換は、あくまで支援として利用されるものです。

しかし、世界標準となったインターネット技術により、情報の需要者・供給者に安価な広域ネットワーク利用が可能となっているため、情報の形状や距離的隔たりを改善するために、これを利用しない手はありません。需要者の立場になって情報提供手段を発案することも、コンサルタント業務の一環ではないでしょうか。

本年は EDI(電子データ交換)の導入が加速すると思われます。まだ先の話ですがエレクトロニックコマース(電子商取引、電子決済)は CALS(生産・調達・運用支援統合情報システム)関連技術の中でも現実性の高いものだと思っています。この分野の技術動向は最も気になる点ではあります。

### 2. 成果品の品質向上

建設・土木関連の技術情報を有効に活用するためには、豊富なデータ蓄積とその加工技術が重要です。データ蓄積は、社内のみならず将来の CITIS(契約者統合技術情報サービス)を考慮したデータベースの構築を目標とし、また加工技術としては、私の専門分野でもあるコンピュータによるシ

ミュレーション技法を積極的に進めて行きたいと考えます。

幸い近年のハードウェア、ソフトウェアの進歩により比較的安価に高等なシミュレーションが可能となっています。既存のパッケージ製品にはない地域の特性と実態に合ったシミュレーションシステムは不可欠だと思います。

### 3. コストの削減へのアプローチ

情報システム導入は、単純作業の機械化による人間の作業時間の短縮という狙いがあります。しかしこれまでは、インターフェースが複雑かつ多種であること、社会のコンピューティングインフラが替わるたびに新たな設備投資が必要なことなどの理由でコストの削減の効果に不満をもつ人も多いようです。

このことは重要な問題と考えています。やや古い言葉となりつつあるダウンサイジングは企業のトータルコストを十分に下げたわけではないようです。これらを解決する方法がイントラネットだと言われていますが、この分野へのアプローチはコンサルタント業としても必須項目だと考えます。

柳沼 基詞 \*



\*) 企画調査室 主任技師（第1種情報処理技術者） Mototsugu YAGINUMA